

未来ファンドおうみ2011 採択団体成果発表会

スケジュール

「びわこ市民活動応援基金」採択4団体発表

- 14:20 +nico(プラスニコ)
- 14:35 食育ながはま元気っ子の会
- 14:50 m-fat/モファ (more field art team)
- 15:05 余呉オペラ実行委員会
- 15:20 休憩

「おうみNPO活動基金」採択4団体発表

- 15:30 特定非営利活動法人どこでも介護
- 15:45 NPO法人アンダンテ参画21
- 16:00 しなやかシニアの会
- 16:15 おうみこっとな夢つむぎ
- 16:30 委員講評
- 16:50 終了

日時：2012年4月14日(土) 13:00~

会場：県民交流センター207会議室

未来ファンドおうみ2011採択団体成果発表会

	NPOの名称	助成金	事業概要
1	+nico(プラスニコ)	250,000	福祉作業所でのものづくりは、障害者一人ひとりにとって、自立・独立の実現や生きる力の育みには不可能ではないかという問題意識を持っています。しかし、障害者のなかには指導者や関係者との出会いやサポートで、才能を開花させ方もあります。私たちのデザイン力、企画力と商品開発のサポートを通じて、彼らの作品・商品に脚光をあてることできる、それを動く意欲・生きる自信につなげたいと活動を始めました。商品のパッケージデザインの提案や販路開拓などの企画運営を行います。
2	びわこ市民活動応援基金助成 食育ながはま元気っ子の会	250,000	子どもの食状況はここ30年間で大きく変化し、家庭の生活と食習慣が子どもたちの成長に大きく影響しています。これまで市の社会福祉協議会と六荘公民館事業の支援を受けて、限られた予算の範囲内で事業をしていたが、今回、大きな講演会を開催して、地域の皆さんへの食育推進を図っていきたいと考えます。子どもたちの健康を考えた食事をいかに家庭でつくっていくのか考えていききっかけにして、意識改革のひとつとしての学びの場を計画したいと思います。
3	m-fat/モファ (more field art team)	208,000	守山でも新興住宅地では近隣住民との交流が少なく、子ども時代に親族や教師以外の大人達に出会う機会も少ないことから、世代間の知識や文化が継承されにくく、心のつながりも薄れてきています。そんな地域社会において、学校や家庭以外の場所で子どもたちが地域と交流出来る機会を、アートの持つ力で創り出せないかと考え、お寺での野外美術展の開催にいたりました。関西在住の現代美術家たちが集い野外美術展を開催して、お寺を「アートのワンダーランド」に仕上げます。子ども向けのワークショップなど幅広い表現方法を体感することが出来ます。お寺という歴史ある場所で、アートをきっかけに世代や地域を超えた新たな交流を目指します。
4	余呉オペラ実行委員会	300,000	「文化を楽しみ、文化を発信する」まちづくりを進める拠点として、はごろもホールが建設されたが、行政支援がなくなると文化事業はほとんど行われていない。そこで住民主導の多様な文化イベントを行い、「元氣な過疎の町余呉」のまちづくりを進めるために活動している。今回余呉の民話「菊石姫」を題材にした創作オペラを子ども音楽グループや女性コーラス隊をベースに開催するものである。出演者から舞台を支える住民ボランティアで組織された「余呉オペラ実行委員会」が実施する。「心の過疎化」を防ぐとともに、元氣で生き甲斐のあるまちづくりを進めることで、住民自らがやればできるとの気概と住むことの誇りを持つまちづくりを促進する。
5	特定非営利活動法人どこでも介護	500,000	介護が必要な高齢者のために、滋賀県内の宿泊・温泉を含む旅のバリアフリーマップを作成する。車いすでも出かけやすいホテル、温泉、観光地、駅、トイレのマップを作り、写真とコメントをつけ冊子にまとめる。高齢になり、体が不自由になっても、好きなところへ行けるやさしいまちづくりを目指したい。大河ドラマ「江」をきっかけに県外からも高齢者が訪れやすいまち、滋賀県を発信する。
6	おうみNPO活動基金助成 NPO法人アンダンテ 参画21	500,000	「ボケズにいたい。家族や回りの人に迷惑を掛けたくない」誰もが願っていることです。「認知症は早期対応で食い止められる」高齢者自身に自覚がある初期に対応すべきであるとした考え方のもとに開発された、スリーA方式を用いて、認知症予防「にこにこサロン」を開催してきました。サロンでは、スリーA方式を遵守しながら、脳をいきいきと働かせるためのプログラムを組み手法を開発し、利用者を支援してきました。今後とも健康でその人らしく生きるための援助をして、他者との交流の場の提供・体力運動能力減退予防・認知力向上の支援活動を続け、その成果を検証し、普及につなげていきたいと考えています。サロン開催は、2週に1回、1年間24回にわたって開催します。
7	しなやかシニアの会	500,000	18年前に看護師が独創で考案した「スリーA」と呼ばれる認知症予防プログラムが成果をあげている。超高齢化社会を目前に全国で拡がりを見せているが、滋賀県ではあまり知られていない。この推進団体との連携で、指導者養成講座を実施し、県内での浸透と高齢者のリフレッシュを行う。認知症・精神科分野の専門家や介護職の方などを招き講演会を開催、地域の高齢者も視野に認知症予防と元氣な高齢者を目指す事業。
8	おうみこっとな夢つむぎ	546,000	地域住民および福祉施設と協働して、休耕地に綿を植え、管理・栽培し摘み取った綿を出荷するとともに、綿から糸をつむぎ、糸や糸を布に織った商品などを販売する。綿の種まき、綿の摘み取りは、綿くり、糸車、織りなどの体験と併せてイベントとして実施する。また、地元の小中学校、大学などで、子どもたちに「綿」の体験学習を行うとともに、琵琶湖博物館で行われるイベントや福祉施設の祭りなどへ出展する。こうしたことをとおして、県民の「綿」への興味・関心を高め、「綿」への理解を深めていく。綿の販売を通して、地域ビジネスの確立を目指す。

+nico ミッションと目的の変遷

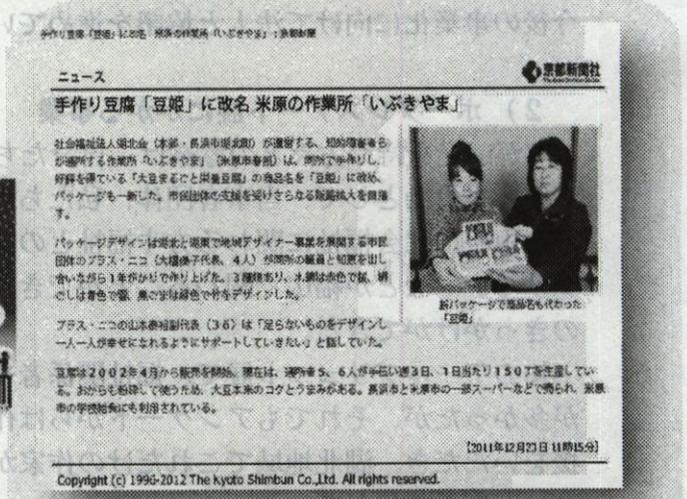
- 当初のミッション：障がい者と健常者の心のボーダーをなくす。
- 当初の目的：デザインと企画力を加えた、市場（地域）で選ばれる商品の創造を通じて、作業者がものづくりに誇りを感じ、働く自信・生きる力を育む。
- 現在のミッション：「私たちは、あらゆる人々がそれぞれの夢を描ける『キャンパス』を提供する」
- 現在の目的：未来、子ども、弱者、地域、農業、環境、アート、人権等をキーワードにしたコミュニティを対象に、私たちメンバー一人ひとりが、水流を生み出す人・未来を描く力を与える。

1. 計画目標と達成度

1) 福祉作業所にかかる事業

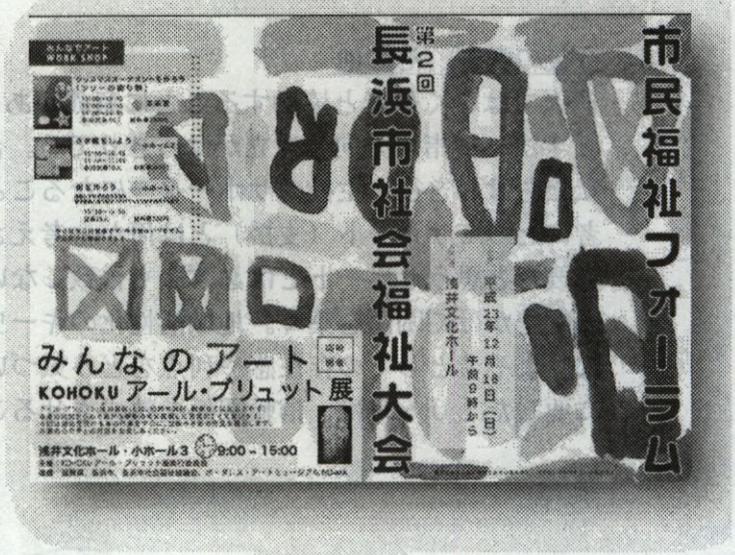
- ・商品の魅力が伝わるパッケージデザインの提案。 達成度 100%
- ・デザインした商品の販路開拓及び販売。 達成度 0%
- ・マーケットニーズに合わせた新商品の提案。 達成度 0%
- ・地元の農業や伝統工芸とも連携した商品開発。 達成度 0%
- ・都市部の各種店舗との提携、ホームページ掲載、各種メディアへのPR等告知 達成度 40%

はじめての協働事業で、パッケージデザインの決定と商品化に想定以上の時間を要し、当初4～5月の予定が12月になった。



2) ボーダレスアート展にかかる事業

- ・ボーダレスアート（アール・ブリュット）展の企画・運営。 達成度100%
- ・制作された絵をデザインに取り入れたTシャツやかばん、包装紙の開発と販売。 達成度 0%



3) 本事業を確実に遂行のため毎月定例会議の開催

達成度100%

ミッションの合意形成や豆腐パッケージの打ち合せの会議、アール・ブリュット展実行委員会を定例で開催できた。

2. 活動成果(地域社会への影響など)

1) 福祉作業所にかかる事業

- ・私たちのミッションの再確認

作業所と関わるにつれ、豆腐の売上アップを図ろうとした私たちと、売上アップよりも日常の仕事づくりを重視する作業所との考え方の違いが明確になり、メンバー間の合意形成とミッションの見直しを行なった。

- ・作業所の変化

約10ヶ月をかけた豆腐のデザインや商品開発の過程で、作業所の方と時間と気持ちを共有することができた。施設長に「+nico が作業所に来てくれたおかげで、職員の豆腐への取り組みが少しずつ積極的になってきた」と語っていただいた。さらに、豆腐の販売促進への取り組みが活発化し、売場のポップ、チラシ、暖簾、保冷車等のデザイン制作を検討中。今後の事業化に向けて法人と協議を進めている。



2) ボーダレスアート展にかかる事業

- ・障がい児を持つ方々との協働は、自分たちにこれまでなかった視座を得る機会であった。

・実行委員会として、当事者団体、私たちのほかに、湖北地域を中心に社会福祉に関わる方や福祉との関わりがなかったデザイナーなどが幅広く関わることができ、湖北からの活動のきっかけができた。

・初のアールブリュット展で、福祉関係者や行政の方の参加が多かったが、それでもアンケートからは作品への感動と応援をいただき、湖北地域でこれだけの作家がいるという発信には一定の効果があった。



3. 今後の課題、その他

- ・個人ではなく他者と協働することに意義があるが、関わる人それぞれの思いが強いため、思考手法、目指す方向の対立がはっきりでる。合意形成は本当にむずかしい。
- ・私たちはわき役・主役のサポーターになることを目指した。しかし、活動を通じて当事者にとってサポート(支援)とは何かと考えさせられた。当事者のニーズと、私たちが必要だと思うサポートとは必ずしも合致しない。
- ・時間をかけて関係を築く。地域活性化のキーワード「若者、バカ者、よそ者」。当事者の方に、よそ者としての存在感や利点をどう気づいてもらうか。この点、豆腐パッケージデザインに要した10ヶ月は、信頼関係を熟成させることにつながった。

団体名 食育ながはま元気っ子の会

① 計画目標と 目標毎の達成 度	【しっかり食べてじょうぶな子どもを育てる地域食育啓発事業】 (1) 講演会開催や地域のイベントに参加し、地域の人たちへの食育推進を図る。 ○現代の欧米化した食事内容を見直し、子どもたちの健康を考えた食事、「子どもに伝えたい本物の食とは」を考えていくきっかけにしていき、意識改革のひとつとしての学びの場を計画し、講演会を実施する。 【食育講演会】<1部>講演会 <2部>味覚のワークショップ ○地域のイベント・生産者との交流会で食育の啓発をする。(みそ汁の提供) 10/16長浜市福祉まつりに参加(当日フリーマ・よさこい踊りの開催) 11/19よばれやんせ湖北(生産者・消費者交流会) (2) 食育推進のグループのネットワークづくり 湖北地域で、子どもの「食」を大事にして子育てをしていくには？ 食育に関心を持ち、湖北地域で活動している団体に呼び掛け、お互いの活動の交流・情報発信などを共有し、連携を深める。 —子どもの「食べる」を大事に考えるネットワーク湖北— を立ち上げ、地域での食育意識の高揚を図っていく。	達成度 100%
② 活動の成果 (地域社会への 影響など)	<p>(1) 講演会の開催に向けての打ち合わせで、当日の講演会のプログラム・役割・グループのネットワーク化、ネーミングを考えるなどそれぞれのグループがひとつになって作り上げたことで、「子どもの食を考える」つながりができた。</p> <p>(2) 講演会開催に向けての協力・後援・広報等をJAレーク伊吹・長浜市地産地消推進協議会・行政・教育機関・新聞社等に依頼することで、湖北での食育の関心度がアップし、食環境を大事にする意識の改革のきっかけができつつある。</p> <p>(3) 講演会后、長浜の情報誌“み～な”で「FOOD×風土 地産地消を考える」の特集。その中に今回の講師金丸弘美氏の巻頭エッセイ「すこやかさは、おいしさからやってくる」が掲載された。また、グループのごはん大好きにぎにぎの会が「食べる」が育む元気な子どもの心とからだのタイトルで活動が紹介された。</p> <p>中日湖北版に食育ながはま元気っ子の会の親子料理教室「おせちづくりに挑戦」の様子が掲載された。</p> <p><アンケートから参加者の言葉より></p> <p>○食育について、子どもたちに教えるという事がいかに大事なのかを理解できた。子どもたちが食いつくような話し方など参考になりました。(30代)</p> <p>○食べることの大切さをどう広げていったらいいのかを考えています。今回のようにネットワークをつくって学習会などをされているのは大変参考になりました。ありがとうございました。(50代)</p> <p>○この講演会のことを知り、話を聞いて本当に良かった。地元の食育を考えることは、地元のほこりを考えることだと改めて感心しました。また、このような食育を考える機会を増やしてほしいです。(20代)</p>	

③ 今後の課題、
その他

(1) 始めて「食」に関する大きな講演会を開催した。後援に行政・教育などいただくが、もう少し募集チラシの案内の趣旨が市民の方々に浸透していなかった感がある。
(参加者100人弱)ただ、聞きたいという人たちが参加くださっているので、少しずつ草の根の取り組みを今後も考えていきたい。

(2) 今後は、子どもの「食べる」ことを大事に考えるネットワーク湖北の団体がつながりを深めていきながら、家庭、行政、学校、農家、医療(病院)、がつながり、一緒に考え、子どもの未来が健康な生活となるように努めていきたい。

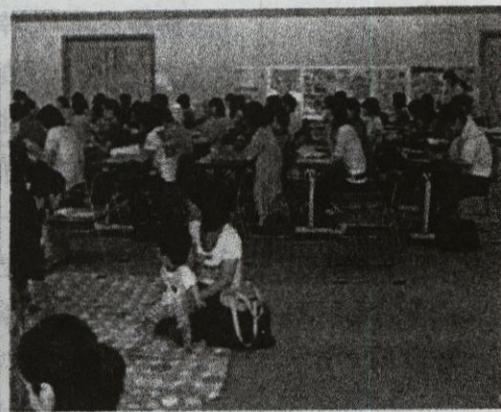
(3) これからの活動でお互いのグループが助け合いながら、湖北地域で子どもの「食べる」を大事にするメッセージを発信していく。

*子育て中の母親・家庭への食育情報発信・・・チラシ作成・5グループの活動発信

*地産地消推進のための消費者からのメッセージを生産者に、また、生産者からの食に対するこだわりなどの情報発信など地域の中で、食の大切さを考える啓発情報誌作りをしていく。

*日々の暮らしを見直しながら、子どもの「食べる」を大事にする活動を地道に進めていくことで、湖北地域の「食」に対する意識向上、「本物の食」をめざしていく。

<事業の様子> ◇講演会・ワークショップ◇



◇イベント・交流会◇



未来ファンドおうみ 2011 助成事業

「第四回守山野外美術展 in 東光寺 おてらハブン！」

m-fat /モファ 成果発表会資料

概要

- ・ 題名 第四回守山野外美術展～お寺 de アート in 東光寺 → 第四回守山野外美術展 in 東光寺 おてらハブン！
- ・ 主催 m-fat /モファ (more field art team)
- ・ 場所 日照山東光寺 境内・隣接する古民家 (滋賀県守山市幸津川町 1189)
- ・ 期間 2011年5月1日～5月5日
- ・ 内容 アート作品展示、パフォーマンス(身体表現)、即興ライブ、ワークショップ(芸術あそび体験)など
- ・ イベント参加者 現代美術家(アーティスト):18人 ボランティアスタッフ:5名
- ・ 来場者数 約400名

1. 目標と活動成果

私たちはアートの力で、地域社会とつながり合えるきっかけをつくり、世代間の知識や文化の継承、こころのつながりを育む事を最終目標として、来場者一人一人とのふれあいを大切に、敷居が低く気軽に参加できるアートイベントとして「おてらハブン！」という美術展覧会を開催しました。

「おてらハブン！」のターゲット層は子ども達(3歳～12歳)

- ▶ ゲームやテーマパークなど、与えられた環境で遊ぶ子どもが多い中、今回のお寺での野外美術展では、子ども達は会場にある美術作品に対して自分なりの評価を考えたり、ワークショップを通じて「自分ならどうするか？」という意見や考えを持つようになりました。
- ▶ アート鑑賞やワークショップにおいて、アーティストやスタッフが、会期中に子どもが名前を付けた作品をいっしょに制作しました。子どもたちが口ずさんだ歌に伴奏をつけてみんなで歌うなど、子ども達の意見をどんどん取り入れたことにより、子ども達は更に活発に意見を出すようになりました。声の小さな、おとなしい子どもの意見にもじっくりと耳を傾けることにより、アーティストは子ども達の独自の発想や視点を拾い上げました。それらを基にして表現する場では、子ども達も安心感を持って力を発揮するという相乗効果を生んでいます。



特に近所に住む子ども達10数人は、毎年、連日この野外美術展に遊びに来ます。過去3回の開催によって、子どもたちはこの展覧会の楽しみ方を十分理解するようになりました。ワークショップでの制作だけでなく、〇〇を作りたい、と積極的に作品制作を希望する子どもが増えています。アーティストの作品に刺激を受け、「他所では不可能なものをここでは作れる、アーティストやスタッフがその手伝いをしてくれる」と認識し、より創造性の高い、独自性のある作品を子ども達が率先して作り始めるようになりましたそしてその作品に対して、アーティストが正当な評価を与えることにより、子ども達の創造性を更に伸ばすことができていると考えます。

2. 地域社会への影響

「おてらハブン！」は、地域のお寺を開催地として第4回目をむかえ、地域のみなさんにとって安心して子どもを遊びに行かせる場となっています。

地域のみなさんが安心できる場所へ

- ▶ 様々な年代のアーティストやスタッフ(上は70代~下は19歳)が常駐しているので、お孫さんを連れてきた祖父母の方も安心して楽しい時間を過ごせます。
- ▶ 保育園や幼稚園がいっぱいで入園できない待機児童の親御さんからは「普段は一人で遊んでいるのだけど、ここで友達ができたり、お兄ちゃんお姉ちゃんに遊んでもらえたから、とても嬉しい。」という声を聞きました。美術展終了後も子ども達がお寺に遊びに来る姿が見られるようになってきています。
- ▶ 幸津川町全世帯212世帯のうち、およそ30世帯の方々にご来場いただきました。そのうち20世帯の子どもは、5日間の会期中3日以上のお来場がありました。



3. 今後の課題と展開

反省点としては、ボランティアスタッフの人数が少なく、来場者の方に作品の案内やアナウンス等が行き届かなかった点があります。今後は来場者の方に、より作品や雰囲気を楽しんでいただけるよう、ボランティアスタッフを充実させると共に、誰からも親しまれる美術展として次回の開催に向け取り組んでいきたいと考えています。また、地域の方とのつながりも緊密にしたいと思います。

地域との連携、ボランティアスタッフがより活動、活躍できる場として(現在進行中の第五回「おてらハブン！」)

- ▶ 新たにボランティアスタッフ窓口の運営スタッフとして動ける方が入り、ボランティアスタッフへの参加呼びかけ、コミュニケーションやサポートが充実してきました。
- ▶ 下記の事前ワークショップに参加してもらった事で、展覧会当日までに「おてらハブン！」の雰囲気や動き方を理解できる時間が生まれ、よりボランティアスタッフとしての参加を楽しむ方法や、できることを自らが見つけてくれるようになってきました。

今回の目標達成度は70%

目標である「来場者一人一人とのふれあいを大切に、敷居が低く気軽に参加できるアートイベント」は達成することができました。

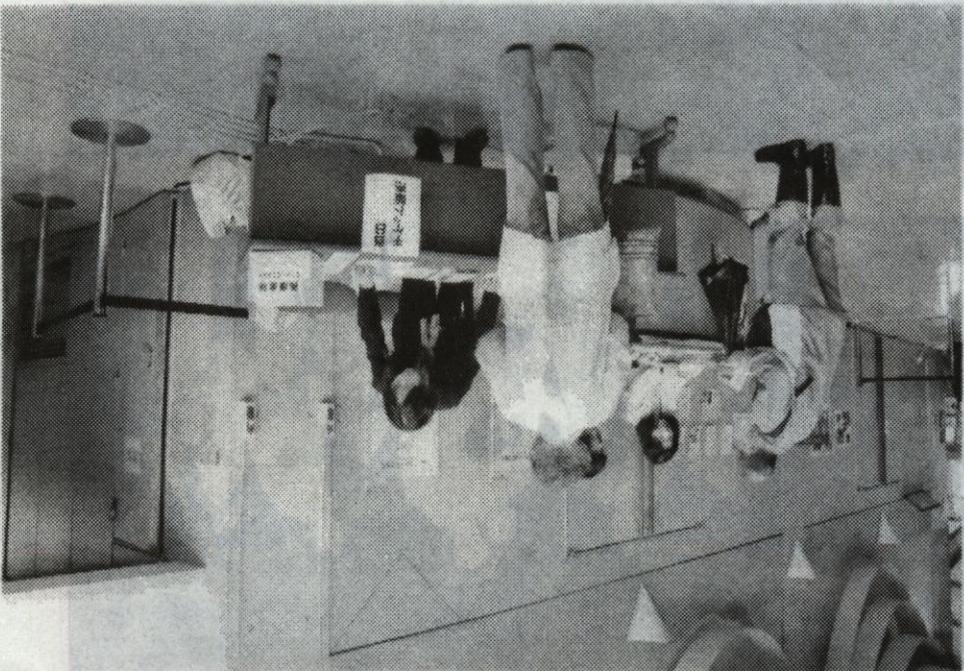
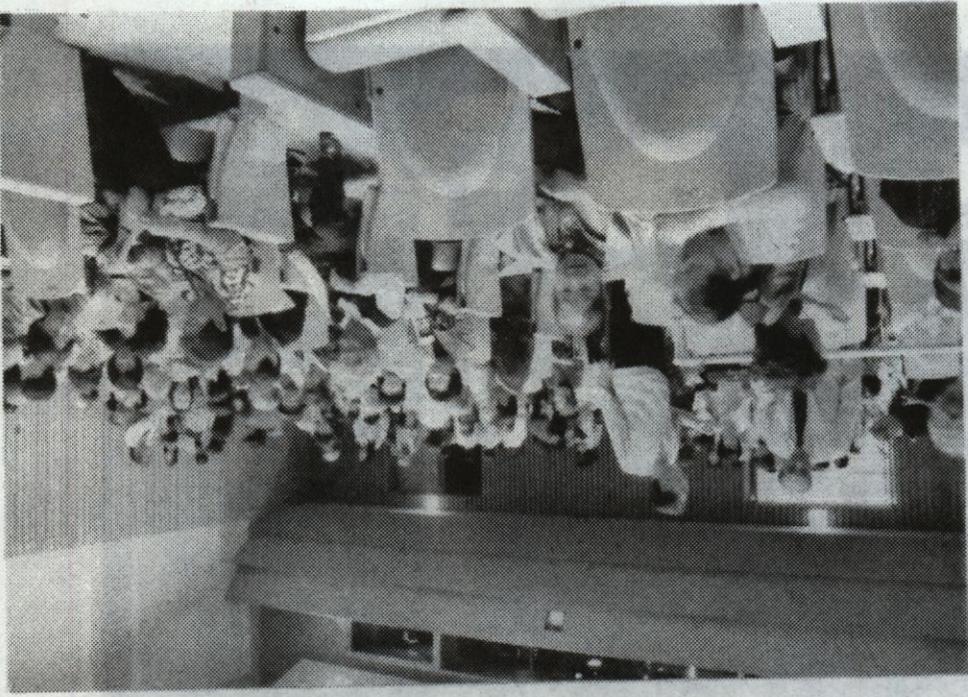
最終目標である「地域社会とつながり合えるきっかけをつくり、世代間の知識や文化の継承、こころのつながりを育む事」は目に見えない成長部分であり、展覧会開催日だけではその成果は低いのではと考え、第五回の「おてらハブン！」では、地域のみなさんからの信頼と、子ども達の積極的な参加を踏まえて、展覧会開催までに、地域の子供達と一緒に、過去の地域を知り未来の地域を考えるためのワークショップを数回開催し、展覧会当日には、過去と未来をつなげる為のタイムマシンを作り上げるといふ新たなプロジェクトを進行中です。

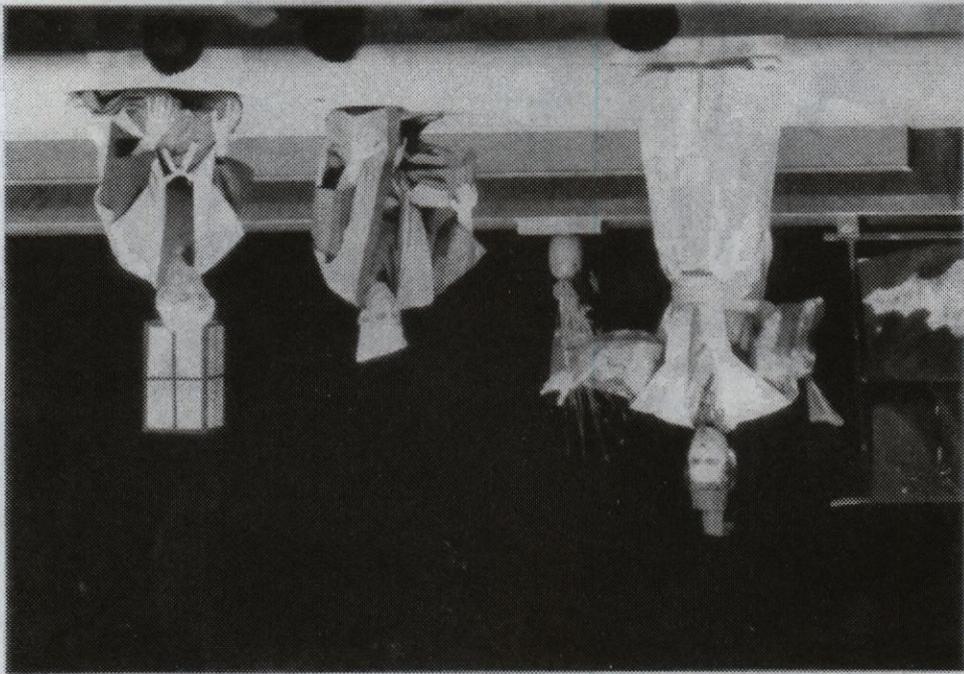
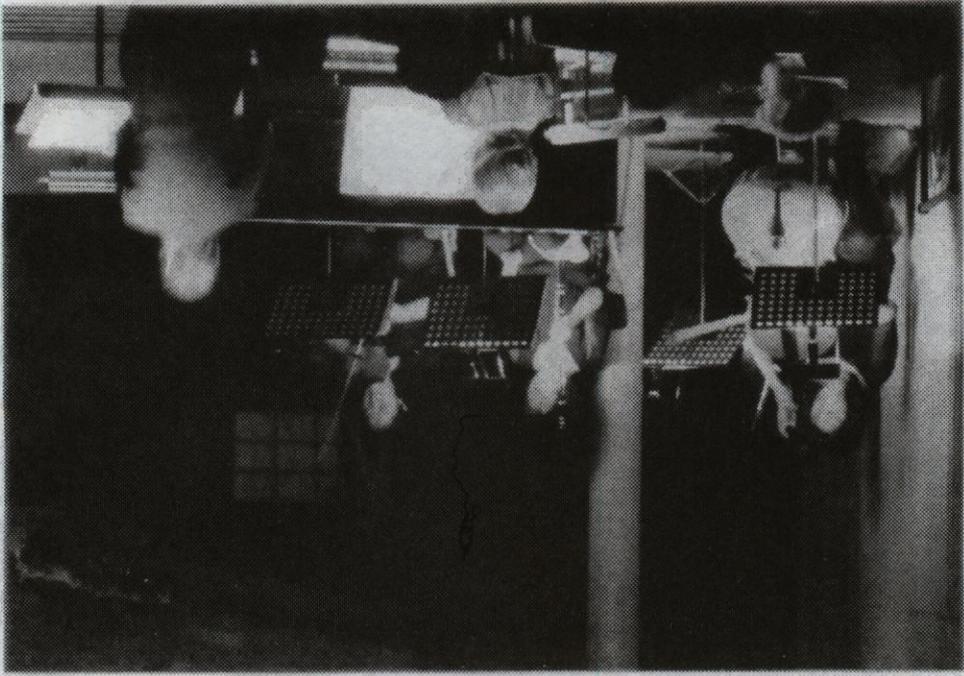


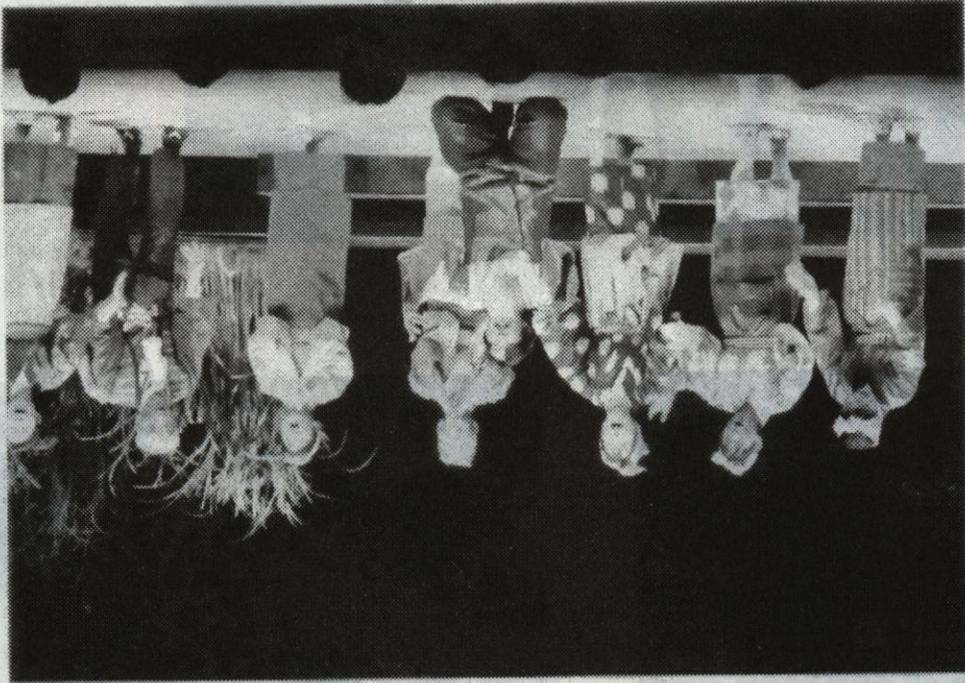
写真は、地域の高齢者の方が語る昔の暮らしの話を子ども達と一緒に聞き、それを絵にしている所です。

<p>(1) 当初計画の概要</p>	<p>①組織作り・・・実行委員会の立ち上げ、5つの部署の設置、 ②各部署の責任者と部員の確保（ボランティア） ③実行委員会会議開催・・・タイムスケジュール、各部署の役割、会計予算 ④発会式・・・プロも含めたオペラに関わる全ての出演者・ボランティア ⑤出演者の練習開始・・・ゲネプロを含めた稽古（5部署も同時に活動） ⑥会計（予算）の検討・・・常時、収支についての把握管理</p>
<p>実績・到達度 (100%)</p>	<p>① 組 織・・・2010年11月24日 第1回実行委員会開催 総務部・・・企画・発信・外部交渉等 会計部・・・歳入歳出会計事務 広報部・・・宣伝・スポンサー開拓 チラシ、チケット、パンフレット作成、売りさばき等 制作部・・・大道具・小道具・舞台美術・衣裳・メイクの材料の 調達、制作、管理 舞台部・・・舞台作り、回し・出演者進行管理・照明 音響・会場・緞帳・アナウンス等の指示管理 ② 部員確保・・・第2回実行委員会までに人員確保を行う 約40名のボランティア確保（各部署に配置する部員） ③ 実行委員会・・・2011年1月27日 第2回実行委員会開催 責任者・部員への公演当日までの役割説明 予算の説明と入場料・スポンサーの依頼 5回の委員会開催 ④発会式・・・2011年4月3日 開催 参加者 78名 総出演者・ボランティア・実行委員等 ⑤練 習・・・母体（ゆきんこクワイア、森の子コーラス隊） 2011年1月より開始 延べ44回（プロとの合同） ⑥会 計・・・収入は入場料、スポンサー（広告料）、助成金等 助成金は報償費・印刷製本費等の経費に使用</p>
<p>(2) 活動成果 (地域への影響等)</p>	<p>①公演当日・・・2011年5月29日（日） 昼の部 213席 夜の部 222席 2部とも完売 多くの称賛の声を頂き幕を下ろす ②打ち上げ会・・・2011年6月10日 オペラ打ち上げ 公演当日のビデオ上映 会計中間報告等を行う アンケート集計結果報告 181件 回収 回収率 41% 余呉オペラの認知度 知っている 70% 知らない 30%</p>

	<p>③ アンケート内容 (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大変、感動した。心が癒された。 ●わしも出たい。 ●子どもたちの歌声がかわいかった。 ●衣裳がとても美しかった。 ●素晴らしい企画なのでもっと広く知られていたらよかった。 ●プロと素人が一緒によく構成されていた。どのように練習されているのか。 ●賤ヶ岳合戦を題材にしたオペラをしてはどうか。 ●生演奏がよかった。 ●龍がリアルでよかった。雨乞いの踊りが印象に残った。 ●オペラを生で聴く機会がないのでよかった。 ●バレエが素敵です。思っていた以上に本格的で驚いた。 ●住民参加型のオペラで初めての観賞で感動。 ●余呉に素晴らしい物があると知り驚いた。 ●余呉にまつわるお話を全国に発信してほしい。 ●一日で終わってしまうのがもったいない。 ●一つの作品を作り上げ、みんなで楽しめる現代のまちおこしの先駆者を見た ●湖北地方でもっとオペラをメジャーにしてほしい。 ●裏方のスタッフの方の努力に感心した。 ●涙が出なくて治療中で、オペラを見て目にうるっと涙がでた。うれしかった ●宝塚のようでした。 <p>④脚本・総監督の横山義淳氏「文化で滋賀を元気に！賞」大賞受賞</p>
<p>(3) 課題・今後の改善方 策など</p>	<p>課題・・まちおこしとしてのオペラ公演の継続 オペラの再演希望や新作への地域の期待感に答えていくこと オペラ公演を行うためには、膨大なエネルギーを必要とする</p> <p>今後の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2～3年は間をあける <ul style="list-style-type: none"> ・充電期間が必要 ・スポンサーに対して続けての公演は、協力が難しい ●次回公演の題材は揃いつつある ●充電期間に行うことは、地道に小さな活動を続けボランティア等の協力が得られる人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・べんがら座での活動 ・余呉芸術村に属しながら、他のイベントへの参加・協力を行う (余呉俳句大会等)









発表用資料

テーマ：車いすで巡る大河ドラマ「江」の旅

NPO 法人どこでも介護 大西 友子

① 計画目標と目標毎の達成度

高齢者の閉じこもりを防ぎ、安心して出かけられる社会をつくるために、
県内のバリアフリー情報の調査を行い、HP 上に公開する

- 大河ドラマ「江」にちなんで長浜周辺のバリアフリー情報を調査する（達成度：ほぼ達成できた）
- 県内の観光、温泉施設、レストランなどのバリアフリー情報を調査する（達成度：ほぼ達成できた）
- お出かけスタッフの増員（達成できた）
- シニアの社会参加を促進する（まだ不十分）
- ミニツアーを実施し、車いすの方を長浜観光にお連れする。（ほぼ達成できた）



出の予、観霧の券令 ⑧

びわ湖温泉ホテル花街道
貸し切り露天風呂

② 活動の成果（地域社会への影響など）

- 長浜市役所の HP にどこでも介護のバリアフリー情報がリンクされることになった。
- 新聞社やラジオの影響により法人の知名度が上がった。
- 新スタッフの応募が 2 名あった。
- バリアフリー調査に行き、ホテルや旅館自体も高齢者にやさしい環境について苦心されていることがわかり、アドバイスもさせていただく機会がもてた。
- バリアフリーの調査場所に実際に車椅子の方とお出かけしたり、ホテルをおすすめすることができ、安心できる旅行につながった。
- ミニツアーを実施したことにより、今後の法人が実施していく旅行業へつなげていく

イメージができた。

○ミニツアーで、介護家族同士の交流が図れ、介護者への癒しにつながった。

○リハビリセンターでの情報誌に紹介された。

○内閣府より、シニアの社会参加事例として取材を受けた。



23. 10. 11

長浜ミニツアー旅行

③ 今後の課題、その他

○シニアスタッフの介助研修を行い、社会参加につなげる。

○安定した経営が課題

○このような情報を必要としている企業や団体と情報交換していきたい。

○興味を示してもらえる自治体に、バリアフリー調査費用を予算に組み入れていただけるよう働きかける。



23. 7. 24

お出かけスタッフ研修

団体名 NPO 法人アンダンテ参画21

<p>計画目標と目標毎の達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防「にこにこサロン」の開設 月2回 利用者11人 ・サロン運営の充実強化 スリーA方式のアレンジ、プログラムの多様化、企画の充実、トーンチャイムの導入 ・スタッフの拡充・養成 スタッフ13人 ・普及啓発活動、老人クラブ連合会、民生委員を対象にした講座へ講師派遣、他のサロンへの援助（延べ77回） ・成果の評価 顔なじみの関係ができ、利用者さん間の交流活発 全員が元気、おしゃれになった。笑顔が増えた。 積極的に外へ出る様になった。 挫折からの立ち直りが早くなった。 相互に本音でしゃべれるようになった。 課題の理解力、判断力が大きい 科学的な検証の導入が難しい 短期記憶の改善がみられた。 	<p>達成度</p> <p>100%</p> <p>100%</p> <p>スタッフの意識が高まり 予防ゲームの開発に努めた。</p> <p>100%</p> <p>〃</p> <p>ほぼ全員 問題のあった人</p> <p>100%</p> <p>〃</p> <p>ほぼ全員</p>
<p>活動の成果 (地域社会への影響など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動が拡充した。 ・他の高齢者サロンへ定期的に援助した。(2か所) ・他団体から見学実習の参加があった。(3か所) ・他の学習会活動から当サロンへの利用者の紹介があった。 ・法人の各活動を通して会員の増に連なった。 	
<p>今後の課題 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点となる場所の確保 彦根市社会福祉協議会との連携の中で確保に努めたい。 ・安定した運営費の確保 利用者の拡充に努め、助成についての情報を集め申請に努める。 ・会員の増(若い世代) 平成24年度は、スタッフ2名確保した。報酬が支払えるよう努力する。 ・民生委員等との連携 ・各地域への拡大普及 ・利用者の体験別、運営に工夫が必要 	

事業名：認知症予防指導者養成講座と高齢者リフレッシュ事業

①計画目標と目標毎の達成度

1、認知症予防指導者養成講座事業

《目標》

NPO法人認知症予防ネット推進の「スリーA」方式による高齢者リフレッシュ事業を行う。「あかるく、あたまを使って、あきらめない」をモットーに認知症の脳活性化訓練を行うもので、この方式の拡がりに向けて指導者養成講座を大津市で行う。1回2時間の講座を全5回のシリーズ、参加募集20名。このコースを2回、夏と秋とに行う。

《達成度》

2回のコースで、40名の参加を目標としていたが、25名にとどまった。各回、チラシを500部印刷。会員・関係者130部、介護施設関連120部郵送、各公共施設などに配布するなどして、広報を行ったが、目標の参加者が得られなかった。講座自体は全て満足できる形で終了した。

2、講演会「認知症について考えましょう」

《目標》

瀬田川病院の水元洋貴医師による講演で、多くの方が認知症について正しい理解をする機会を得られるようにと企画。

《達成度》

講師とメールで何度も打合せをし、参加者に沿った講演をして頂き、目的は達したと言える。しかし、参加者を100名と想定しそれに見合う会場を確保したが、秋で様々な行事と重なり、参加者が予想の半分しか得られなかった。

3、さらなる高齢者リフレッシュ事業

《目標》

当会の活動拠点の中央の町家「リュエル」で、高齢化率の高い地域（大津）のシニアの活性化につながる活動を行う。

《達成度》

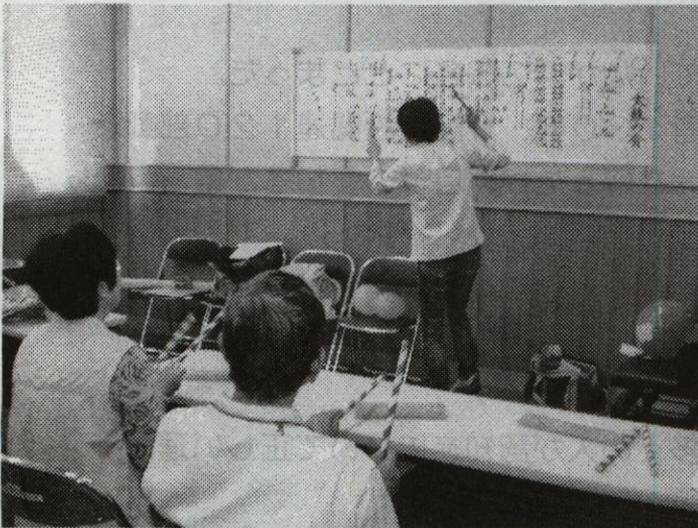
「リュエル」が徐々に認知されるようになり、さまざまな方が参加、来訪され、満足して頂けた。

②活動の成果

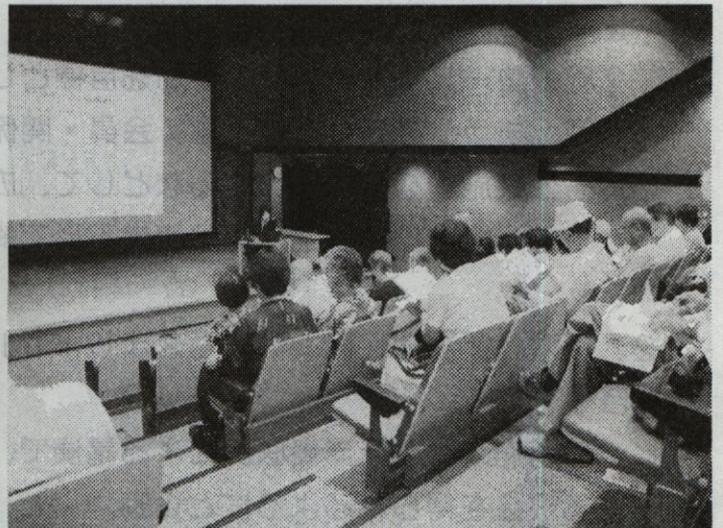
- 3Aの参加者は、介護の職場で活用、家族と行うなどと実践されている様子。一緒に学んだ仲間同士の連帯が生まれ、再度実践の場が欲しいとの声が出ている。今後につなげていきたい。
- 講演会は、会場が浜大津近辺であり近くで話が聞けるのでと参加されたり、実際に認知症の家族を看ている方、認知症の家族を見送った方なども参加された。参加者からは、話は分かり易くととてもプラスになった、との声が届いた。

③今後の課題、その他

本事業を継続するにあたり、拠点の維持、即ち家賃とスタッフの確保が課題である。当会の自立に向け、初心に帰り、収益事業を行うと共にシニア世代を中心とした活動をさらに充実していきたい。



3A方式の講習会



認知症についての講演会



チャリティー茶会



ハーブを愉しむ

活動の成果(1)

- 綿の量は少なかったが、福祉施設にも綿のつみ取りを委託し、地元住民やボランティアにもお手伝いいただき、地元での理解も進んできた。
- 種まき・つみ取りイベントにおいても、地域の食材等を使った昼食を地元女性の協力により参加者に提供し、地産地消を行うとともに、昼食後の時間を利用して自己紹介などの交流が図れた。
- 聖泉大学のインターシップを受け入れ、一緒にイベントに参加して、キャリア教育を行い、有為な人材を地域に還元するサポートができた。
- 県内で綿づくりの輪が広がっており、興味・関心を持っていただいている人が増えつつあり、綿や道具を購入希望者に販売でき、徐々にビジネス化へ進んでいる。

おうみこっとな夢つむぎ

5

活動の成果(2)

- イベントへの出展の回数も増え、体験教室の開催や愛荘町の公民館、彦根市の男女共同参画センターの事業として体験学習を実施した。来年度の実施希望もあり、体験学習の機会は増えてきている。
- 福祉施設が管理している綿畑では、障がいをもつ人では難しい草取りなどの作業を地域ボランティアの方々にお手伝いいただき、地域と一体となって綿作りの取り組みが定着してきている。また、地元の保育園と連携して取り組み、交流し合っている。
障害のある人の仕事として、また、子ども達等に「ものづくり」の楽しさを伝え、世代を超えた地域とのつながりを大切にした取り組みとして「人の輪」が広がってきている。

おうみこっとな夢つむぎ

6

今後の課題、その他(1)

- 糸や糸から布などの商品化や、商品販売などを試行錯誤で進めている。「近江の麻」とのコラボや、東近江市で特産化を進めている「むらさき」で染めるなどの工夫を行うとともに、糸や商品、道具の販売を進め、ビジネスサイクルの確立に向けて取り組んでいく。
- 綿くり作業を福祉施設にお願いしたが、なかなか量がこなせず、綿くり等のイベントを実施し、量の確保に努めた。販売コストの面からも綿のままの出荷も進める。
- 引き続き学生インターシップを受け入れ、キャリア教育を行い、若者の地域還元のサポートをしていきたい。

おうみこっとな夢つむぎ

7

今後の課題、その他(2)

- 子ども達などの体験学習を広め、自然の大切さや「ものづくり」の楽しさを伝えていきたい。
- 聖泉大と県立大で非常勤講師として、活動紹介や体験学習を行い、学生への興味・関心を高めたい。
- 福祉施設での「綿」づくりを通して、施設の利用者や地域の方々などが一緒になって取り組み、施設と地域とのつながりを一層深められるよう、機織りの指導など協力体制の整備の支援に努めていきたい。



おうみこっとな夢つむぎ

8

活動テーマ:「綿づくり」を通して「人の輪」を広げ、「地域ビジネス」の確立を目指す

計画目標

- 綿の栽培、商品販売
- イベント・体験学習の実施
- 学生インターンシップへのキャリア教育
- イベント等への出展・出店
- 道具の製作・販売



おうみこっとな夢つむぎ

計画目標と目標毎の達成度(1)

地元住民・ボランティアおよび福祉施設と協働して、休耕農地に綿を植え、栽培・管理し、摘み取った綿から糸をつむぎ、糸や糸を布に織った商品販売する。(福祉施設が、綿のつみ取りや綿くりを行い、団体に糸にしてから、施設で糸を布に織って商品にし、販売する。)

- 休耕農地に協働して、綿を植え、栽培・管理し、つみ取った綿を、綿くりをして、綿を販売した。綿のつみ取り・綿くりを福祉施設にも委託するとともに、地元住民やボランティアにもお手伝いいただき、綿の栽培・管理を行った。
- 天候や土質に恵まれず、綿の量は例年に比べて少なく、施設のつみ取り回数も少なかった。施設での綿くりも予定量に達せず、施設での織りは難しく、強力な支援の必要性を感じた。
- 達成度 約50%



おうみこっとな夢つむぎ

計画目標と目標毎の達成度(2)

- 種まき・つみ取りは、綿くり機、糸車、機織りなどの体験と併せてイベントとして実施し、参加者の理解を深めるとともに、地元食材を使った昼食を提供し、地産地消に行き、参加者の交流を図った。
- 子ども達等に体験学習を行うとともに、学生インターンシップを受け入れ、キャリア教育を行う。

- 種まき・つみ取りは、綿くり機、糸車、機織りなどの体験と併せてイベントとして実施し、参加者の理解を深めるとともに、地元食材を使った昼食を提供し、地産地消に行き、参加者の交流を図った。
- 体験教室の開催や公民館の事業などの体験学習を行い、聖泉大学1回生4名を受け入れ、イベントに参加してもらってキャリア教育を行った。
- 達成度 約100%



おうみこっとな夢つむぎ

計画目標と目標毎の達成度(3)

- イベントや福祉施設の祭りなどに出品し、県民への「綿」への理解を深める活動や体験学習を展開する。
- 空き倉庫を改修し、綿くり機・機織り機などの綿の加工道具を製作して希望者に販売し、「綿」仲間を増やしていく。

- 彦根市、草津市、守山市などで開催されたイベントや福祉施設の祭りなどに出品し、県民に「綿」への理解を深める活動や体験学習を展開した。また、「いいもん市」などに出品し、綿商品の販売を図った。
- 空き倉庫を改修し、綿くり機2台・機織り機2台・成経ドラム1台・卓上機織り機2台を製作し、綿くり機2台を販売した。
- 達成度 約80%



おうみこっとな夢つむぎ

淡海ネットワークセンター（（公財）淡海文化振興財団）
〒520-0801

滋賀県大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2F

TEL：077-524-8440

FAX：077-524-8442

E-mail：office@ohmi-net.com

